

2019年度文系チャレンジ講座（第5回）を実施しました

10月16日（水）に経済学部の松岡輝美先生を講師に迎え、「ICTと企業経営—APIによる新規ビジネス—」というテーマで、文系チャレンジ講座の第5回を実施しました。遠隔配信した白杵、中津南、安心院、大分雄城台、国東、大分商業、竹田、大分西、大分鶴崎、日田および来学受講した大分南の11校317名が受講しました。



松岡先生はまず、「API」について、海外で使用する家電アダプターと変圧器を例に説明されました。そのうえで「API：Application Programming Interface」とは、企業経営において、自社のサービスに新たな機能を加える際に、社内外の機能を活用することにより、開発運用をより短期間・低コストで実現できること、その際に必要なデータやシステムを標準化・汎用化すること等を説明されました。



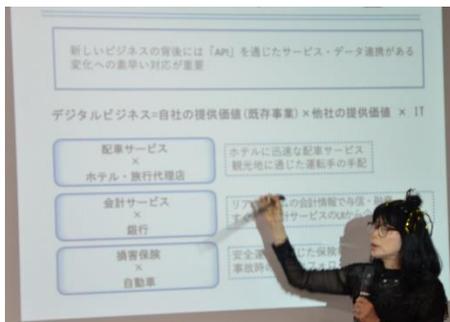
「APIエコノミー」ということばがありますが、これはAPIを通じて公開されたデータ・ソフトウェア・システムを自社サービスに取り込むことで、サービスの質を高め、その結果、ネットワークに参画するサービスの付加価値を向上させ、ユーザー層の拡大に

つなげる経済活動のことです。現代社会においては、ホテルや旅行代理店と観光地におけるタクシーの配車サービス、リアルタイムな会計情報を活用する金融機関、自動車の損害保険サービスなど、自社の既存事業と他社の提供価値、それらとITにより新規デジタルサービスが開発されています。



では、「APIを活用するメリット」は何なのでしょう。『API提供事業者』と『サービス事業者（API利用者）』、そして『消費者』の3者それぞれの

メリットを挙げ、3者ともに利益を享受できることを示し、APIエコノミーを構築する利点であると説明されました。さらに、「FinTechとAPI」の説明に続き、「金融機関API」については、ドラマ化された映像によりわかりやすく説明を受けました。APIが企業や社会とサービスをつなぐ役割を持ち、新しいビジネスの可能性は今後も広がっていくということを大いに学んだ講座でした。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（86%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（97%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（97%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（63%）、「映像はよく見えた」（86%）という結果が出ました。